

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/さくらユニット)

事業所番号	2794700068		
法人名	社会福祉法人 豊悠福祉会		
事業所名	セカンドリビング祥雲館		
所在地	大阪府豊能郡豊能町吉川36番地の1		
自己評価作成日	令和4年2月15日	評価結果市町村受理日	令和4年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもと、日常生活への支援を通じて、安心と尊厳のある生活を営むことができるようなサービスの提供を心掛けています。利用者一人ひとりのこだわりを大切に、利用者の人生を応援できるよう、「望むこと、やりたい事は何なのか？」を考え話しながら日々取り組んでいます。また、利用者とのコミュニケーションテクニックの一つとして五感対話法を取り入れ、利用者との接し方について皆で学んでいます。地域にも広がっていくよう取り組んでいます。ユニット目標を「和やかな生活作り 共に楽しむ」と掲げ、利用者と共に生活者として接しています。ご家族の方とも情報交換を行い、皆で一緒に和やかな空間を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

摂津市にある前身の「社会福祉法人桃林会」が、豊能町に特別養護老人ホームを開設したのを契機に、2012年に「社会福祉法人豊悠福祉会」が設立され、豊能町内で「祥雲館ヴィレッジ〇〇」と称する複合高齢者施設4か所を運営している。当事業所は「祥雲館ヴィレッジ彩」内(デイサービスセンター・短期入所施設を併設)に2008年開設され、2015年に現法人に引き継がれた。法人とは、フェスティバル・芸術祭・ファッションショー・会議・研修などで、併設施設とは避難訓練・給食などで密に連携している。事業所では、利用者の自立支援を目指して、生活リズムや希望・こだわりを大切に、利用者本位で考えられないことだけを支援するよう努めている。利用者の意向・希望や職員の意見・提案を良く聞いて取り入れ、一体となって和やかな生活を共に楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の朝礼時に職員で理念の唱和を行なっている。年2回の方針連絡会では、全職員に対して、理念の説明が行われている。各職員に対して、経営基本方針を配布し、理念の提示を行っている。	3項目の法人理念とは別に、グループホームの部門使命(目標)「認知症ケアをリードする専門職として地域との関りをもち、生活に寄り添い支えていくことである」を策定し、各ユニット内に一緒に掲示している。また、全職員に配付する経営基本方針の小冊子の中にも両方を記載して周知し、チーム会議(職員会議)でも再確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で地域ボランティアの方に来て貰えない状況が続いています。	自治会に加入し、地域の行事への参加、保育園児との相互交流、中学生の職場体験や各種ボランティアの受け入れなどで、地域の人達と交流していたが、コロナ禍で全て中止している。系列施設が3か月に1回主催する町民とのリモート会合に当事業所からも参加し、今後町民向けにオンラインで認知症実践ケア報告会を実施する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	Caféや介護教室の開催 男性介護者の会 地域自治会等の依頼で認知症ケア勉強会などの開催	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響もあり、運営推進会議を実施できていない。	令和2年1月に運営推進会議を開催して以降、コロナ禍が拡大したため、集合しての会議も書面開催も実施しておらず、行政の了解も得ている。	地域密着型介護施設としてサービス向上を図るために、運営推進会議は重要な場である。コロナ禍終息が見通せず会議開催が難しい中でも、できるだけ詳しい運営報告書をメンバーと全家族に送付して文書で意見収集し、その内容と事業所の対応を含めた議事録を送付して実効を上げることが望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる		町役場の保険課とは介護保険の更新や事故報告などで関係し、地域包括支援センターとは事業所運営や家族の支援などについて相談しアドバイスを受けている。地域の事業所連絡会には、法人の在宅事業部門代表が参加し、介護支援事業所が持ち回りで主催する事例検討会には法人が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を実施し、身体拘束についての知識習得に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 部門会議内でも勉強会を行っている。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、年2回の研修などで職員に周知している。施設合同の毎月の身体拘束廃止委員会に参加し、勉強会を行い事業所の職員会議で報告している。ユニット間は行き来自由にし、玄関と併設施設間のドアは安全上施錠している外に出たい人には職員が付き添って近くを散歩し、閉塞感を解消している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施し、虐待についての知識習得に努め心身に対する虐待のないケアに取り組んでいる。 部門会議内でも勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を実施し、「人権」について考える機会を設け、ケアに活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に沿って個別に説明し、質問に答えている。 又、確認したい事や分からない事がある時はいつでも質問を受け付けることを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族に向けたケアに対するアンケートを実施し、改善に努めている。	コロナ禍の中でもオンライン面会を随時行い、昨年11月にはリモートで家族会を開き、利用者の様子をライブ配信して喜ばれた。3か月毎に利用者個々の写真にコメントを添えた便りを送付している。年1回の家族アンケートでは、事業所への満足度や良い点・改善点を把握し、分析・グラフ化して家族にフィードバックし、改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議を開催し、現場の意見を反映するように努めている。 職員向けのアンケートを年1回実施し、運営への意見の反映に努めている。	ユニット合同の職員会議を月1回行って職員の意見を聞き、各施設長が参加する運営会議で反映している。事故対策・地域連携・感染症・食事サービス・褥瘡対策などの各委員会を設置し、14種の担当者も設定して、職員は分担して運営に関わっている。夜間入浴日の設定、個別便りの発行、クラブ活動の実施など、意見反映の事例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年ごとに評価を実施し、賞与に反映している。 評価後に個別に面談を実施し職員に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTによる現場での実践力の習得・ケアに対して皆で考える機会を設けている。 各種内部研修を実施し、知識や技術の習得に努めている。 外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姉妹法人と連携し、定期的に研修・意見交換を行っている。 施設見学や見学者の訪問を設けたり、意見交換などを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人や家族からの聞き取りにより生活歴等を調べ、それをもとに本人との信頼関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	カンファレンスなどで、家族の不安に感じていることや要望を聞き、一緒に対応策を考えることで、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人や家族からの聞き取りにより、必要としている支援を抽出し、今一番良いと思われるサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の声に耳を傾け、不安や苦しみ・喜びを共感する姿勢を大切にしている。必要時には個別の対応を取っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来館時、本人の様子を伝えながら、家族の不安や疑問に感じている事柄について答えている。丁寧に対応することで、家族との関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣のスーパーや喫茶店、神社などに出かけ、本人の馴染みの場所や人とのつながりを切らないように努めている。	入居時の「生活状況」シートで、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握し、職員間で共有している。コロナ禍でその関係の継続は難しいが、今も馴染みの神社への参拝を支援し、家族の意向を確認して、電話の使用や手紙のやりとりを支援している。利用者が以前居た併設施設の人との交流や地元の散髪屋の利用なども支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の人間関係を考慮しながら、食堂テーブルや座席などを検討している。臨機応変に対応し、その時の関係を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同施設内の他事業所に移られた利用者の交流があり、話をする場面がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方との会話の中から、本人の思いや意向を知り、それを実現できるように心がけている。	利用者と1対1の時(入浴時・マッサージ時・夜間など)によく意向を把握でき、夜の女子会や月1回の「おやつ会議」では、活発に希望や意向が出される。表出しにくい人には選択肢を提示したり、表情・仕草や筆談などで把握している。夜間入浴・おやつ・園芸・役割(食事盛り付け・洗濯物干し・ゴミ出し・餌やり)など、できるだけ希望を叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思い出話や家族からの聞き取りから、以前の生活についての把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での必要な事、出来ることは何か考え、カンファレンスを実施し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行ない、ニーズを確認し、計画を立て実施している。 家族を交えたサービス担当者会議を開催するようにしている。	ケース記録・申し送りファイルや毎日のケアプランチェック表(○×で可視化)、随時のカンファレンスなどを基に、長期目標1年・短期半年の介護計画を作成している。ケアプランチェック表を基に「課題整理統括表」を半年毎に作成し、サービス担当者会議(家族・管理者・計画作成者と随時本人が参加)を開いて、半年毎に計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日々の変化に柔軟に対応できるように随時カンファレンスを行っている。 カンファレンスを書式化し、回覧ファイルにて情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部からおしゃれ屋(散髪)やパン屋さんを招いたり、他部署から協力を依頼している。 生活に必要な物があれば、家族と相談し、買い物に出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響もあり、地域の祭りや自治会の取り組みに参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	月1~2回、往診に来て頂いている。 個々で主治医が違うため、医師や家族と連携を取りながら、適切な医療を受けられるように努めている。	入居前の利用者のかかりつけ医を入居後もそのまま引き継いでいる。主たるかかりつけ医(2か所で利用者の半数が利用)や歯科医(4名が受診)からは、月1回の訪問診療がある。看護師は、法人の訪看ステーションから来館して利用者の健康管理などに当たるほか、24時間オンコールに対応し、利用者・家族や職員の安心を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	不調の兆しや訴えがあった時に看護師に連絡し、指示を仰いでいる。 24時間オンコール体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関に入院時等、利用者の情報を提供し治療できるように情報交換を行っている。 医療ソーシャルワーカーと連絡を取ったり、面会に訪れるなど関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業内で内部研修を実施し、知識習得に努めている。 家族、医師を含めたサービス担当者会議を行い、話し合いの場を設けている。	入居時に、利用者・家族に事業所の指針を説明し同意書を得ている。看取りに当たり、かかりつけ医・家族同席のサービス担当者会議を行い、家族の希望に沿って安らかな最期に向けて看取り介護に入る。職員研修を行い、経験が浅い職員の看取り後の動揺には、管理者などが適切なアフターケアをしている。直近1年間の看取り事例は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で定期的に研修を実施し、知識習得に努めている。 各部署にマニュアル本を置き、緊急時にも対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地元消防署に協力を依頼し、年2回の避難訓練を実施している。 また、大規模災害発生時の初動行動マニュアルを全職員に配布している。	ハザードマップからも山崩れが最大の懸念で、大規模災害訓練を年1回実施し、火災避難訓練は夜間想定も含め年2回実施している。広域消防・町役場・町内会および4か所の法人ヴィレッジ(施設の集積)との防災などの緊密な連携対策を取っている。飲料水・アルファ米・缶入パンなど3日分や介護品を、安全なプレハブ倉庫に備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室。WC、浴室、居室などは本人が鍵をかけられるようにしている。	浴室はドアやカーテンで仕切り、職員は利用者の安全を配慮のうえ少し離れて見守っている。職員は接遇研修などで声かけや話し方を学び、都度自己点検している。利用者が、居心地の良い椅子やベンチで一人で過ごす時間を大切にしている。利用者の安全のため、玄関の施錠や居室の夜間センサーマットの設置を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での本人の要望等は出来る限りレクリエーションやイベントに反映できるように努めている。 また、選択肢がある場合には希望を確認しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣を大切に、スタッフの都合に合わせてことなく、一人ひとりのペースで支援していくように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の希望があれば、地元の散髪屋を利用したり、訪問美容に来て頂いている。日中・夜間の更衣を行っている。 季節に合った衣類調整を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立がわかるようにボードに記入したり、食事の盛り付けを一緒に手伝ってもらっている。 月1回のお楽しみ食事レクを実施している。	施設内厨房で委託給食業者が調理した食事をワゴン車で搬入し、利用者が炊飯や盛り付けなどを職員と一緒にやっている。事業所におやつ会議があり、利用者の要望を取り入れて、月1回の食事やおよつたのレクリエーションを楽しんでいる。また、ご当地メニューと称して特産料理を提供し、名古屋の味噌カツや沖縄ソーキそばなどを楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事、喫茶時等の水分摂取量を確認している。管理栄養士と連携を取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に歯磨き、うがいを促し支援している。義歯の方も同様に実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握するため、チェック表を使って、自立支援に努めている。適量の水分を摂取できるように努めている。	排泄リズムを把握して利用者の自立支援に努めている。日中は利用者7名が布パンツで過ごし、6名がリハビリパンツとパッドを併用している。おむつは昼夜を通し5名である。夜間はセンサーマットを活用して2～3回トイレへ誘導するほか、パッドを大きめにし睡眠優先の人もいる。老健からの入所後や退院後には、トイレ自立の改善例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便を確認しており、看護師と連携し、消化剤や下剤などを使いコントロールしている。出来る限り自然排便を促すために、定期的な運動も促すように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々が入りたい気持ちを最優先できるように努めている。個々にお声掛けを行い、入浴困難な方にも定期的に入浴を促している。本人の希望により、同性介助も行っている。つきに2回夜間入浴日を設定し、希望された方を入浴して頂いている。	タイル張りの小さめの浴槽だが、シャワーチェアなどを利用して、利用者全員が浴槽に浸かることができている。夕食後の入浴が可能で(月2回)、現在3～4名の利用者が楽しんでいる。必要に応じた2人介助や、希望による同性介助を実施している。季節のゆず湯・しょうぶ湯のほか、希望者は入浴剤を使って香りなどを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家族の方にも協力を依頼し、ご自宅で使用していたものやお好きな毛布などを準備して頂いている。生活リズムをもとに、臥床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服管理を行い、配薬時に個人名の確認と声掛けを行い、安全、確実に服薬して頂けるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活全般において、役割をもっただけよう支援している。 ここにあったレクリエーションを提供するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、日常的に散歩に出かけたり、ゴミ出しを手伝ってもらっている。利用者の希望に沿ってベランダでの喫茶や花壇の手入れをしてもらっている。 ドライブや買い物に出かける機会を設けている。	事業所はハイカーなどが山頂を目指す街道傍にあり、散歩にも最適である。園芸とおやつクラブがあり、イチゴ・グリーンピース・ブロッコリーを栽培中で、収穫後はおやつに利用される。門から玄関までのアプローチには花壇やベンチがあり、外気浴が楽しめる。春秋には車で花見や紅葉狩りに出かけ、地の利を活かした外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出掛ける機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は事前に家族に意向を確認しており、その中でできる範囲で利用者の希望に沿って対応している。 手紙についても家族と相談して対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが不快にならないようテーブル配置を考え、随時変更している。利用者の選択肢や意向も大事にしている。 浴室はゆっくりと入浴していただけるよう支援している。	居室は直線型廊下の両側ではなく、雁行型と周回型に配置され、採光や通風などを工夫したユニークな設計になっている。廊下に面した各居室の飾り棚には、利用者お気に入りの折り紙などが飾られている。理念や部門目標のほか、職員の紹介写真や利用者協働の季節毎の作品が飾られており、全体的に上品に設えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にも談話室を設け、その時に応じた空間を自己決定できるように配慮している。 ユニット固定ではなく、流動的に活用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた温度調整を行い、清潔感を保つことにより、居心地のよい空間作りに努めている。 家族にも協力を依頼し、使い慣れた物等を持参して頂いている。	冬寒くて夏涼しい自然環境を勘案し、居室には床暖房が設置され、エアコンは後付けされている。ベッド・寝具・カーテン・照明も予め設置され、利用者は使い慣れたテレビ・整理タンスや思い入れの備品などを持ち込み、居心地の良い部屋造りをしている。清掃は、専門の清掃員が共用部分を、利用者職員が居室を担当し、清潔を維持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルやいすの高さにも配慮し、自立支援に努めている。 WC、居室の表札などに工夫をしている。		